

**Professional Development SIG at AAS 2003 SIG Seminar
March 28, 2003**

日本語教育に於ける IT リタレシイの向上
～全米の IT の現状と教員養成の展望

尾本康裕 カリフォルニア大学バークレー校 (yomoto@nihongoweb.com)
恵子・シュナイダー サボテンウェブデザイン(kschnei@sabotenweb.com)
深井美由紀 インディアナ大学 (mfukai@indiana.edu)

1. テクノロジーの使用状況に関するアンケート

2002年5月に ATJ と NCJLT に所属する日本語教師から 500 人にアンケート調査を行った。

アンケートでは、主に

- (1) 日本語教師のコンピューター状況とその日本語環境、テクニカルサポートについて
- (2) 各教育機関に於けるコンピューター施設などの使用状況
- (3) テクノロジーを使用したプロジェクトと推奨するウェブサイトなどという3点を通じて調査した。

2. 1. 全米調査の結果 (1)

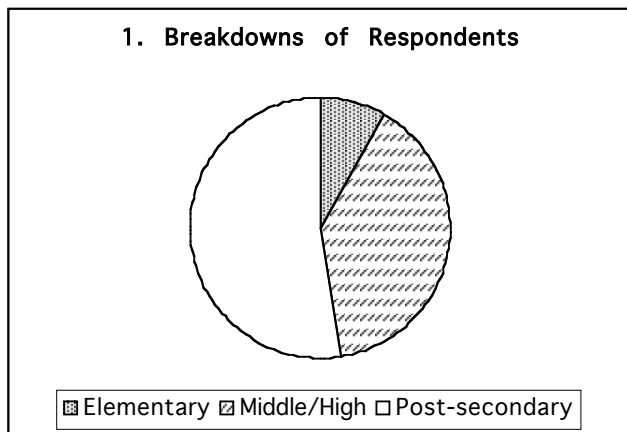
500 名中返答は 225 名 (回収率 45%)

225 通のうち、有効回答数 216 で、複数の教育機関で教えている日本語教師を重複して数え、最終的に 243 件の回答を分析対象とした。

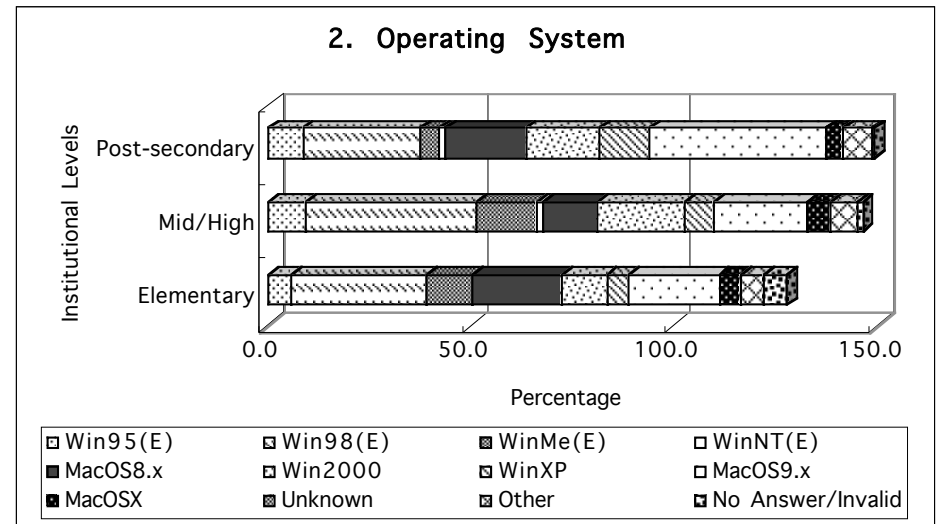
小学校グループは 18 人 (8%)

中学・高校グループは 88 人 (39%)

大学グループは 117 人 (53%)

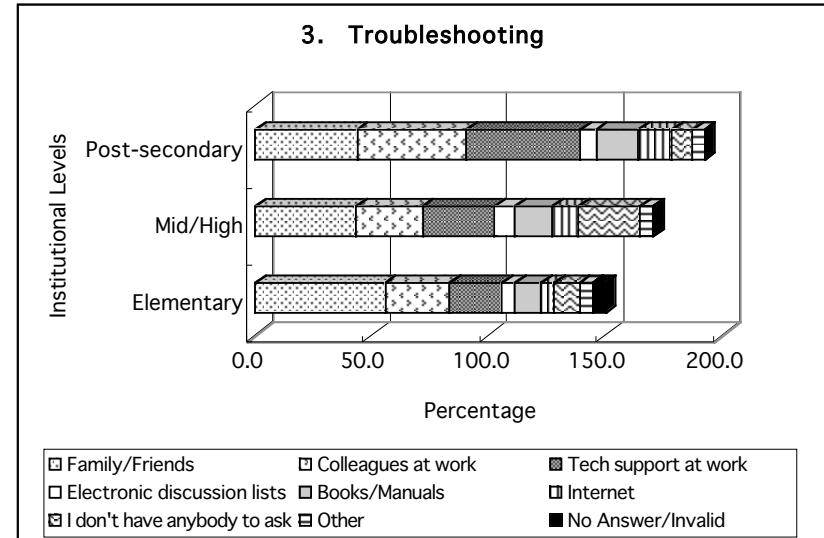


使用しているコンピューターの OS



これからの教材開発にはウィンドウズとマッキントッシュのシステムを視座に入れて開発を行わなくてはならない。

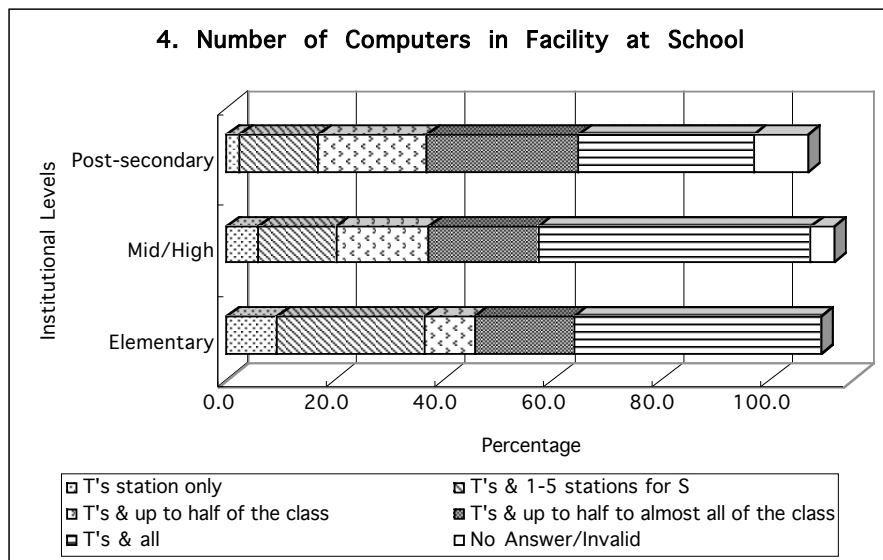
サポートの状況



サポートは「家族/友達」「職場の同僚」からという回答が上位2つを占め、どのグループも身近な、個人的なリソースに頼っている。教員養成を行う際に、コンピューターの日本語環境の整え方などを導入するのは必須。

2. 2. 全米調査の結果 (2)

教育機関にあるコンピュータ施設に関して
教師は協調学習を念頭に置き、アクティビティーをデザインしなければならない。
い。



2. 3. 全米調査の結果 (3)

教育者が推奨する役に立つウェブサイト 10 (順不同)

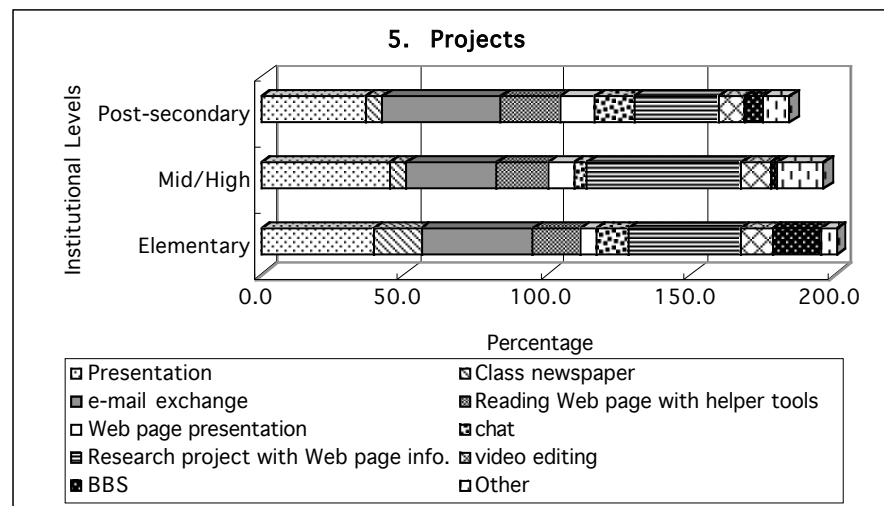
- **Kids Web Japan:** <http://jin.jcic.or.jp/kidsweb/>
- **Japanese Language at About.com:** <http://japanese.about.com>
- **Keiko Schneider's Bookmarks:** <http://www.sabotenweb.com/bookmarks>
- **NihongoWeb:** <http://www.nihongoweb.com>
- **Reading Tutor:** <http://language.tiu.ac.jp>
- **Rikai.com:** <http://www.rikai.com>

- **The Japan Forum (including "DEAI"):** <http://www.tif.or.jp/> (Japanese) <http://www.tif.or.jp/indexe.html> (English)

- **Jim Breen's Japanese page:** <http://www.csse.monash.edu.au/~jwb/japanese.html>
- **Purdue University Japan Project:** <http://www.sla.purdue.edu/fil/JapanProj>

■ Copyright free Audio Visual Center: <http://eall.wlu.edu/eall/avcover.html>

コンピュータを使ったプロジェクトに関する回答
どのレベルでもプレゼンテーション、メール交換、ウェブを使ったリサーチが
最も多い。



3. これからの教員養成の展望

日本語環境を整えるかを教員研修などで教える
基本的なアプリケーションである E メールソフト、ブラウザ、ワープロなどで
日本語がタイプ出来るような研修
ユニコードやコンピューター
協調学習の方法
役に立つウェブサイトの使い方をハンズオンで研修
生教材の効果的な活用法

4. まとめ

本発表では日本語教育に於けるテクノロジーの現状を素描し、この現状がこ
れからの教材開発、教師養成の展望に大きく関係があることを示した。これか
らの教材開発、教員研修に何か寄与できれば幸いである。